



## 2024-25 年度 委員会活動計画

会員増強部門

### クラブ拡大・会員増強委員会



委員長

**吉田 賢治**

八戸南 RC

RI会長テーマ「The Magic of Rotary ロータリーのマジック」が発表され花田ガバナーより地区スローガン「個性輝くロータリー」が発表されました。ロータリアンもそうでない人も、その人の個性を發揮して人生を輝かしい物にすることができ、一人一人が自らの個性を發揮し他者の個性を尊重する気持ちをもってロータリー活動を実践していけば『きっと仲間が増え』、その先には地域社会の発展や世界平和の実現につながっていくと提唱されました。クラブ拡大・会員増強について、ただ数にだけ固執しては続かなくなります。ロータリアンとして他者への思いやりの考え方を身に着け、活動・行動を通じてロータリーの素晴らしい世界を一緒に体感していく仲間を増やしていきましょう。

会員増強委員会には各グループから出向していただいた委員がおります。各グループのガバナー補佐、会長・幹事の皆さんと情報・アイデアを共有しながら会員増強に努めてまいります。

SNSが発達したおかげで、以前より多くの方が困っている現状を知る機会が増えました。「何とかしてあげたい・微力でも力を貸したい・私でも何か出来る事はないのかな」と感じている潜在的奉仕願望を持つ人は増えていると思います。青森RCの能登半島地震の義援金募金活動に参加させていただいた際も、子供から高齢な方まで実に多くの方から募金をしていただき本当に頭が下がる思いでした。年齢・性別に関係なく奉仕の心を持った人にロータリーをもっと知ってもらい、入会してもらい、生涯の友と出会い、ロータリーを楽しもうではありませんか。

5月 クラブ拡大・会員増強委員会

6月 女性会員の集い

7月～委員長・委員にてクラブ訪問情報交換・以後約3カ月ごとに進捗状況確認訪問

10月 公共イメージ向上委員会と共催でイベント検討

※ガバナー公式訪問時のクラブ動向をガバナー補佐よりグループ委員に情報共有。工藤PG、築館PG

のもと、各クラブ会長・幹事をはじめ会員の皆様のやる気本気のご協力を賜りながら努めてまいります。ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

公共イメージ向上部門

### 公共イメージ向上委員会



委員長

**工藤 孝子**

弘前東 RC

ロータリーの公共イメージと認知度の向上を図る。

ロータリークラブは、そしてロータリアンは、地域にとってそして世界にとって良いことを、行なっていると言う事実を、特にロータリー関係以外の方々に広く認知して頂き良い印象を持っていただく事です。

#### 1. 地区SNSにより活動を内外に発信する。

☆定期的なSNSの発信

地区各委員会との情報共有

クラブの奉仕活動の情報共有

#### 2. ポリオデー開催の推進

(ポリオ委員会、会員増強、財団、国際奉仕青少年奉仕、米山、DEI、公共イメージ)

☆世界ポリオデー(10月)

トレインジャックを津軽鉄道で企画する。(赤や黄のエンドpolioナウのシャツを着て)ポリオ委員会と相談してインパクトある写真の撮り方を研究。

公共イメージ、ポリオ委員会を中心に各委員会で分担してインパクトあるプロジェクトを計画する。

同日、エルムの街で、ポリオ啓蒙活動を行う。

(例えば、音楽、ビラ配り、ワクチン投与の写真、出前授業の映像、マーチングバンド等あらゆる事を組み合わせる事が出来るか検討)

#### 3. 世界女性デー実施に向けて発信を支援する。

ロータリーデーに向けて発信を支援する。

#### 4. マイロータリー登録の推進

#### 5. 報道機関との交流懇談会を企画し実施する。

#### 6. ビジュアルアイデンティティの強化

奉仕活動をする時にお揃いのTシャツを着たり幟を立てたりする事は私達の活動を世の中に知って頂き活動に共感する人々を仲間にする機会を増やします。

#### 7. 広告の検討

\*身近な広報の実践にご協力を

いつでも始められる広報活動の実践を会員の皆様にご協力をお願い申し上げます。

- ♣ 会社の待合、応接室等にロータリーの友や関連書籍を置いていただく。
- ★ ロータリーバッジを可能な限りつけていただく。

社会奉仕・職業奉仕部門

社会奉仕・職業奉仕委員会



委員長  
**岩岡 隆雄**  
八戸東 RC

昨年に引き続き、委員長を拝命いたします、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

昨年度はクラブ例会卓話もお招き頂き職業奉仕と社会奉仕の関係について考え方を報告させていただきました。今年度もクラブのプログラムに卓話を計画していただければと思います。

2025年1月25日土曜日 職業奉仕フォーラムを地区事業として計画しております。詳細が決まり次第、ご案内させていただきます。

第9回目となる、青森大学と教育連携協定による、じょっぱり経済学も開催します。

2025年4月より開講しますので、12月には講師募集のご案内を予定しております。

昨年度事業も2024年7月24日まで青森大学にて毎週水曜日14時40分より開講しており、受講されたロータリアンには、受講証明(メイクアップカード)を発行しております。

これは大学の学生のみならず、ケーブルテレビでの配信もあり一般の方も聴講する事が出来ます。職業奉仕を経営者みずから伝える事が出来るプログラムです。

この後、南部版経済学の模索を進めております。地域に人材育成機関があり、その土地で育て雇用が生まれる環境づくりにロータリーの職業奉仕実践があると思います。

また、10月にはポリオ月間もありポリオ撲滅募金活動を推進します。ご協力をお願いします。

ロータリー財団部門

ロータリー財団委員会



委員長  
**佐藤 健一**  
青森 RC

1. 活動方針

- ① 財団活動に関するPR資料を作成し、財団活動に悩んでいるクラブを訪問し、財団の役割、必要性の理解を増進し、寄金実績を上げる
- ② 多くのクラブにおいて地区補助金事業を実施する
- ③ 地区においてグローバル補助金による事業を実施する
- ④ クラブにおいてグローバル補助金事業に挑戦する

2. 具体的行動

- ① 地区補助金・グローバル補助金によるPR資料を作成する
- ② クラブにおいて、補助金事業実施と寄金推進のPRを図る
- ③ 各クラブ担当者に対する財団セミナー、補助金管理セミナーを開催する(7月、12月予定)
- ④ 実施事業に関するメディア、SNSの活用を促進する

3. 小委員会活動

各小委員会はガバナー補佐と連携して各事業の推進を図る

- ① 地区補助金委員会
- ② グローバル補助金委員会
- ③ 資金推進委員会
- ④ 平和フェロウシップ・奨学金・学友委員会
- ⑤ ポリオ対策委員会

ロータリー財団部門

地区補助金委員会



委員長  
**西尾 和樹**  
八戸南 RC

2024-25年度の地区補助金委員会委員長を務めさ



させていただきます八戸南RCの西尾です。地区補助金の活用、管理、運営にご協力をお願い申し上げます。

地区補助金は、地域社会のニーズに取り組むための、比較的規模の小さい、短期的な活動を支援するものです。地区やクラブの幅広いプロジェクトや活動に活用することができます。

- ・人道的プロジェクト(奉仕活動を行うための現地への渡航や災害復興活動など)
- ・奨学金(教育機関のレベルや場所、支給期間、専攻分野の制約なし)
- ・青少年プログラム(ロータリー青少年交換、ロータリー青少年指導者養成プログラム、ローターアクト、インターアクト)
- ・専門職業をもつ人びとから成る職業研修チームの派遣(現地の人びとに職業研修を行うチーム、または現地で職業スキルを学ぶチーム)

クラブが地区に直接申請することで、さまざまな奉仕プロジェクトに地区補助金を柔軟に活用することができます。

地区補助金委員会は、すべての補助金プロジェクトが迅速に実施されるよう、クラブからの申請を管理、確認し、資金分配方針に基づき、資金を支給するプロジェクトを決めます。

年度開始前にクラブから地区補助金の申請(2024-25新プロジェクト)を受け付け、プロジェクトの審査、決定を行い、クラブのプロジェクトを東京事務所へ一括で申請します。すべてのプロジェクトが承認された後に各クラブへ補助金を送金し、プロジェクト実施後には、報告書の提出を行います。

申請から実施、報告までが年度をまたぐ事業ですので、会員みなさんのご理解、ご協力を賜りますようお願いいたします。

地区補助金を活用することで、各クラブでの奉仕活動の活性化はもとより、プロジェクトを地区内外、ロータリアン以外にも広く発信、紹介することにより会員増強、公共イメージの向上につなげていけるよう活動してまいります。

1年間、どうぞよろしくお願いいたします。

## ロータリー財団部門

### グローバル補助金委員会



委員長  
**須藤 朗**  
野辺地 RC

グローバル補助金は、複数国のロータリークラブ

又は地区による共同事業に対して授与される大規模で測定可能な成果を生む持続可能な活動が対象の補助金です。

当委員会の活動計画事項としては、

- A) 地区補助金に比べてグローバル補助金は認知度が低く感じられるので、認知度アップの施策を考える。
- B) 当地区では、援助国側でのケースがほとんどなので実施国側のプロジェクト提案をよく吟味してプロジェクトを選定していきたい。
- C) 他地区ではクラブ単位でグローバル補助金を申請して海外での奉仕活動を行っている地区もありますが、当地区では殆どが地区単位での申請、実施となっています。よって当委員会としては、各ロータリークラブがグローバル補助金を申請することへの取り組みを支援できるようにしていきたい。
- D) R財団奉仕事業の公共イメージを向上させる事に取り組みたいです。
- E) 地区財団活動資金(DDF)は、地区全体の資金であるので運用についての規定があるべきと考えます。例として「地区財団活動資金(DDF)運用規定」ほかに「グローバル補助金のためのDDF申請書」等も準備が必要ではないのかと考えています。

## ロータリー財団部門

### 資金推進委員会



委員長  
**櫛引 大樹**  
青森 RC

大前提として、寄付ゼロクラブが無いように活動してまいります。

各クラブからの寄付により奉仕活動が行えるという基本原則の考え方を会員の皆様に周知してまいります。

各クラブの寄付の状況を把握しながらタイムリーに寄付のお願いをするように取り組んでいきたいと思っております。

ロータリーカードの普及率を上げていきたいと思っております。

ロータリーカードを利用することで世界に貢献できるということを広めていき、少しでも利用者を増や

していきたいと思ます。

会員の皆様のご協力を宜しくお願いいたします。

ロータリー財団部門

平和フェローシップ・奨学金・学友委員会



委員長  
**竹島 直樹**  
十和田東 RC

平和フェローシップについては、ハードルが高いため2830地区では応募者が少ないですが、2002年に創設されて以来、ロータリー平和センターは1700人以上のフェローを輩出してきました。これらのフェローは現在、140カ国以上で活躍し、政府、NGO、教育、研究機関、平和維持および法執行機関のほか、国連や世界銀行といった国際機関でリーダーシップを発揮しています。今年度も2830地区から世界で活躍できる平和フェローシップ奨学生、グローバル補助金奨学生、地区補助金奨学生を募集いたします。また、学友会名簿の充実や交流機会を設けることを推進します。

ロータリー財団部門

ポリオプラス委員会



委員長  
**成田 俊介**  
弘前西 RC

2024年4月上旬現在パキスタンで2例、アフガニスタンで2例の発症報告がありますが、確実に減少傾向にありポリオ根絶に向けて前年度同様に活動を継続します。

2024年10月12日(土)地区大会の朝に五所川原市内で世界ポリオデーのウォークラリーを開催する予定です。地区大会前に参加者を募りますので宜しくおねがいします。

10月24日の世界ポリオデーの前後に公共イメージ委員会が津軽鉄道のトレインジャックなどを開催する予定ですので、世界ポリオデーのイベントにポリオプラス委員会は協力する予定です。

2024年-25年度も昨年同様にパキスタンのカラチでのポリオワクチン接種事業を行います。予定では11月23日(土)羽田空港出発で11月27日(水)帰国予定です。地区研修協議会の前には詳細な案内を出す予定です。

地区では「じょっぱり看護の人 花田ミキ」の映画上映を計画しているとのことでポリオプラス委員会も協力していきます。

ポリオウィルス感染症が日本で撲滅されてから数十年経過しており、患者さんも高齢化しています。若い人へのポリオウィルス感染症の理解を進めるためにsnsでの発信を始める予定です。

国際奉仕・青少年奉仕部門

国際奉仕委員会



委員長  
**柴田 文彦**  
むつ中央 RC

各委員会での活動の多くは国際的なものが関わっています。国際奉仕委員会では、各委員会での国際的活動に参加することでの協力と必要とされるサポートを行っていきます。

各委員会、各クラブも同様に国際的な奉仕活動を行う際には、“何か手助けになれば”と思しますので一報頂けますと幸いです。

具体的には、インターアクト委員会でのアクトの翼事業の協力、国際大会推進委員会での国際大会参画、ポリオ根絶運動についてはポリオプラス委員会の活動に限らず協力又はサポートさせていただきます。

ポリオワクチン接種活動

(パキスタン カラチ)11月23日～

国際大会(カナダ カルガリー)6月21日～

アクトの翼(台湾宜蘭県羅東鎮)12月25日～



## 国際奉仕・青少年奉仕部門

### 青少年交換委員会



委員長  
**岡山 信広**  
六ヶ所中央 RC

東第一グループ・六ヶ所RCの岡山です。  
今年度が3期目、最後の地区委員長年度になりま  
のでよろしくお願い致します。

2023-24年度は、青森RCをスポンサー・ホスト  
クラブとし以下の2名の学生の交換を実施しました。  
派遣学生：柴田怜音くん・松風塾高校3年生(2023  
年8月出国)  
受入学生：Mikai Carlsonくん・アメリカ・ネバダ  
州(D5290)18歳(2023年8月出国)

柴田くんは2024年6月の帰国を予定しており、現  
在も充実した留学をしている様子です。

しかしながら、Mikaiくんは持病の気管支系の疾  
患が留学中に重度に悪化し健全なRYEが実施でき  
ないと判断し、2024年2月19日に私の判断で早期帰  
国(強制)することしました。本件については、RYE  
の正式な手順を踏みながらも発生したことを申し添  
えさせていただきます。

当該年度のRYEでは築館パストガバナー、前年度  
地区役員、とりわけ青森RCの皆さまには大変なご  
苦労とご協力を頂きましたことを感謝申し上げます。

今年度は、派遣学生はおりませんが、One Way  
で台湾から1名の受入学生を予定しており、2022-  
23年度に派遣した橋本明依さんのスポンサークラブ  
の六ヶ所RCにホストを頂くことでご了解を頂いて  
おります。

加えて、一般社団法人国際ロータリー日本青少  
年交換多地区合同機構(RIJYEM)主催のRIJYEM研  
究会青森会議を2025年6月7日(土)、8日(日)にリンク  
ステーションホール青森、ホテル青森を会場に開催  
する事となりました。

日本全国のガバナー、青少年奉仕部門関係ロータ  
リアン、派遣予定学生、受入学生、ROTEXが約350  
人集結します。彼らを暖かくお迎えするため、RYE  
ご興味がある方は是非にご参加を頂ければ有り難く  
存じます。  
RYE事業(長期)は、1年間の長期にわたる高校生年

代の青少年を交換する、他の奉仕団体には無い国際  
ロータリー唯一無二の活動です。参加すれば貴重な  
経験を出来ると思いますのでご興味のある方は年度  
の途中でも構わないのでご参加を頂ければ有り難く  
存じます。

## 国際奉仕・青少年奉仕部門

### ローターアクト委員会



委員長  
**竹内 知弘**  
弘前西 RC

2024-25年度ローターアクト委員長を拝命いたし  
ました弘前西ロータリークラブの竹内です。

まず、今年度のやりたいこと(願望・目標)を列記  
していきたいと思っています。

1. 年次大会の開催
2. ローターアクトによるロータリー地区補助金の活用
3. ポリオ活動
4. RYLAへの参加
5. RLIへの参加

ローターアクト独自の活動のみならず、ロータリ  
アンとの交流も考えての活動方針でございます。

数人のローターアクターに「なんとか」お会いで  
きましたが、彼らの中には、活動はしたいが何をど  
うやってしたらよいか分からない。といった状態の  
方もいらっしゃいました。ロータリーイベントに呼  
んで一緒に活動ができれば、お互いに楽しいと思  
います。

↓以下、お願いでございます。↓

さて、これらの活動の基本になるものが例会だ  
と思うのですが、コロナ過のこともあり、ローターア  
クトの例会および活動が強制的に縮小となり、存続  
自体が危機的状態となっております。

是非ロータリアンの皆様には、ローターアクター  
に手を差し伸べて欲しいです。傍らで並走し、寄り  
添って欲しいと考えております。

【いつぞやの規定審議会】によって、ローターア  
クトを取り巻く環境はインパクトがあります。

ロータリーとほぼ同じ立場になったり、年齢制限  
が撤廃されたり、間にコロナだったり、人頭分担当  
金だったりなど。

このような現状を考えると、ローターアクトへのサポートは必須と考えます。スポンサークラブのみならず、多くのロータリアンのサポートがキーになると考えております。じゃなきゃ若い人が、がっかりしちゃうかも。今一度、ローターアクトクラブを設立したときの気持ちをもって、ご協力を伏してお願ひ申し上げます。

最後に今年度の私の好きな言葉で締めたいと思います。

↑ 個性輝くロータリー ↑

↑ Simply irresistible ↑

国際奉仕・青少年奉仕部門

インターアクト委員会



委員長  
**松山 隆志**  
野辺地 RC

例年、インターアクト委員会の活動の大きな柱は①インターアクト年次大会を開催する ②インターアクトの翼を実施する ③ガバナー表彰の実施 の3つです。

現在地区内には22のインターアクトクラブが組織されています。ここ数年コロナ禍の影響により各クラブとも思い通りの活動ができない状態が続いていましたが、ようやく本来の活発な奉仕活動に戻りつつあるように思えますので地区委員会としても積極的に支援して参ります。

①インターアクト年次大会

地区内22校に組織されたインターアクトクラブのメンバーが一堂に会し、その活動についての情報を報告し合うとともに、寝食も含め共働することによって友情と親睦を深めることを目的とします。例年、ホスト校及び提唱クラブの協力により特色のある大会を開催しています。開催時期、開催方法、大会内容などを慎重に検討した上で「開催」に向けて行動したいと思ひます。

②インターアクトの翼

高校の冬休み期間を使いインターアクターを海外へ派遣。現地の家庭にホームステイしながら短期間ではありますが異郷での生活を体験、現地高校生との交流によって、その後の人生への糧としてもらう大変有意義な企画です。ここ数年は、台湾の現地ロー

タリークラブの多大なる協力により実現、温かく迎入れて頂き、大きな成果をあげています。出発前の不安と期待でのおどおどしていた参加者が帰りの飛行機の中では堂々とした顔つきになっているのを目の当たりにすると、是非継続していきたいと思ひる事業です。

関係方面と広く協議の上、継続実施する方向で調整を重ねていきたいと思ひます。

③ガバナー表彰の実施

インターアクターの在学中の積極的な奉仕活動に対して卒業時に顕彰を行います。

今年度は前年度に引き続き各提唱クラブに対し「各校インターアクトクラブへの指導をより推進すること」をお願いしたいと思ひます。各クラブ毎、それぞれの方法でインターアクトクラブへの関与を進めているとは思ひますが、コロナ禍においては奉仕活動等の容、実施方法等について方向性を見いだせずにいるインターアクトクラブも多かったことと推察します。「さらに一歩踏み込んだ関与」によりその一助になれば、より効果的な活動を実行することが出来るものと考えます。各提唱クラブの方々は積極的に学校へ足を運び、高校生達と「話」を試みませんか。

以上、今年度は、さらなる飛躍の年度となるよう進めていきたいと思ひます。

すべてはインターアクターのために…。

国際奉仕・青少年奉仕部門

RYLA委員会



委員長  
**三浦 基**  
青森 RC

RYLAとはロータリー・ユース・リーダーシップ・アワードの略称で青少年に学ぶ機会・集う機会・話し合う機会を提供し、既存のリーダー論を学ぶのではなく、講師の実体験をもとにした講義を受けて頂く事で、リーダーシップとは何か、リーダーとはどのような人間か、リーダーに求められるものは何かを考えるきっかけをロータリーが提供するプログラムです。

当地区は対象を概ね18歳～30歳に設定しており学生・社会人は問いません。青少年であればどなたでもご参加いただけます。(ただし地区内RCからの



推薦は必要)

今年度は2025年6月14日～15日の日程で開催予定です。皆様のクラブからたくさんの青少年のご推薦をお待ちしております。

米山記念奨学部門

## 米山記念奨学委員会



委員長  
**佐藤 一尚**  
青森 RC

米山記念奨学事業は、将来母国と日本との「懸け橋」となって国際社会で活躍する留学生を奨学することを目的としています。米山奨学生となり、勉学に専念しながらロータリー活動を行い、ロータリー運動の良き理解者となり国際平和の創造と維持に貢献する人になることが期待されます。2024-25年度では、継続奨学生と新規奨学生合わせ11名の奨学生をお世話させていただきます。当委員会、そして奨学生をお世話頂くクラブ・カウンセラーはもちろんのこと、第2830地区各クラブの皆様にもご理解とご協力を頂き、この素晴らしい事業を推進していきます。

### 1. 寄付金について

寄付金は、普通寄付と特別寄付があります。クラブ会費から寄付される普通寄付は一人3千円以上、例会時に任意で寄付される特別寄付は一人2万円以上を目標として推進します。皆様の温かい寄付が、米山奨学生の成長の糧になりますし、更なる米山奨学生の受け入れに繋がりますので、宜しくお願い致します。

### 2. 米山奨学生との交流

世話クラブでの例会や行事参加を促し、カウンセラーや会員が仲良くコミュニケーションを図れるように配慮します。他クラブには、卓話訪問を通じて交流を図れるようにします。また、地区行事にも参加を促し、交流の輪を広げたいと考えております。

### 3. 優秀な人材の選考

指定校より優秀な留学生を推薦して頂きます。書類選考・面接選考を通じて、本事業に合致する素晴らしい人材を選考していきます。

### 4. 主な行事(詳細は改めてご案内します。)

- 9月 米山フォーラム
- 12月 面接選考会
- 3月 修了式

4月 オリエンテーション

5月 卓話講習会

DEI推進部門

## DEI推進委員会



委員長  
**源新 育子**  
八戸北 RC

皆様ご承知の通り、この委員会は花田年度が初めて地区に設置した委員会です。国際ロータリー理事会は、2021年にロータリーの中核的価値観を反映した新たなDEIの行動規範を採択しました。そのことにより、私たちはロータリーのあらゆる活動において、持続可能でより良い変化を生むために、多様性を重んじ、人種や性別などあらゆる背景を持つ幅広い人々による貢献を大切に、さらに自分が大切にされていると感じる帰属意識を持てるような文化を育む事が求められています。しかしながらDEI諮問委員会などの意見の中には、日本のロータリーでは「多様性」が、いかに重要であるかに気づいていない会員が多いのではないかという声が聞かれます。特にジェンダーギャップ指数については146ヶ国中125位と先進国では最下位です。ロータリーの中核的価値観の中には、すでに「多様性」が採択されており、ロータリーのグローバルな変化で、これらの活動と連動できていなかった結果と考えられます。当地区においても会員増強は急務ですが、ただ会員を増やすためだけに簡単なオプションに頼るのではなく、一步一步DEIの理解と実践に努めることが必須であると考えます。そのためにも地区内のDEIについての理解の状況を把握し、あらゆるリソースや情報の提供、もしくは研修などの計画を講じていきたいと考えております。地区全体が手を取り合い協力しながら行動する事、その積み重ねが結果として、ロータリーの「質と量」に繋がって来るのではなかと考えます。

### 実施目標

- ①現状把握のために「DEI」に関するアンケートを全クラブに取り、必要に応じて適切な対応をする。
- ②映画「じよっぱり」の上映・(ポリオプラス委員会と協力)
- ③2025年3月8日・「国際女性デー」の開催(公共イメージと協力)
- ④2025年6月14日・「女性会員の集い」(会員増強委)

員会と協力)

ロータリーリーダーシップ研究会

R L I 委員会



委員長  
**三浦 真介**  
弘前 RC

国際ロータリー(RI)の用語や記述を和訳することの難しさや不完全さはよく耳にするところであり、そもそも英語圏と日本語圏の文化背景や行動様式自体が異なる中で、私たち日本語話者はRIが発する言語やメッセージを理解しようと努めること自体が言わば研修そのものとなっている部分もあり、だからこそ往々にしてロータリーリーダーたる私たち自身が主体性を失い、いつまでも教えを乞うという姿勢に終始してしまいがちなところもあると思います。

ならば英語圏のロータリアンは全てを理解しているのかといえば、そんなこともないはずで、時流や価値観の変化とともにロータリーの規定や語法や重点項目も常にバージョンアップされ、世界中のロータリアンに今も問いを与え続けているのです。

そしてまさにRLI(ロータリーリーダーシップ研究会)こそ、そうした不断の問いに共に立ち向かい、知識の授受よりも寧ろ話し合いを重視するという極めて日本文化的な手法も取り入れながら解答を見出していく方法なのです。

だからこそRLIの進行役となるファシリテーター(促す人)の役目は重要かつ難しく、まずは何よりもその人材の拡充と研修が必要であるため、年度の前半からは、まだ決して十分とは言えないRLIそのものの周知徹底とファシリテーターの募集及び研修に努め、年度の後半に次期リーダー等を対象としたRLI研修を開催したい所存です。

具体的な活動計画は以下の通りとなります。

1. クラブ例会卓話等を活用してのRLIの説明と周知(年度前半～)
2. 活力あるファシリテーターの募集と研修(年度前半～)
3. 次期リーダー等を対象としたRLI研修の開催(年度後半に1泊2日の集中研修)

なお中長期的には研修対象の特色ある細分化や開催会場の分散等も視野に入れ、より多くの参加者と研修内容の充実をもとに、各クラブの活性化へと繋げていく方策を見出す必要もあろうかと思えます。

ロータリーの友地区代表委員



**木下 一志**  
五所川原 RC

地区内のロータリークラブの活動情報を積極的に収集し、ロータリーの友編集部へ提供していきます。地区の活動が雑誌に反映され、他地区のロータリアンにも情報が共有されることを目指します。また、編集部から地区に寄せられる情報も、クラブに適切に伝達していきます。

各クラブの「ロータリーの友」への投稿のお願い

投稿はウェブサイトのフォームからすぐに投稿できます。

有効活用していただき、投稿の機会を増やして頂きたくご協力をお願いいたします。

地区内クラブの記事が掲載されると読む機会が増えるので是非、各クラブで積極的な投稿をお願いします。

ロータリーの友の有効活用を推奨

新会員獲得にも「ロータリーの友」を有効活用することを推奨します。新入会員の獲得と会員の退会防止は、全国共通の課題でもあり、「ロータリーの友」ではこれらのテーマが記事として取り上げられる予定です。

デジタル版の推進

「ロータリーの友」のデジタル版の積極的な活用を推進します。全国で電子版へのアクセスがないクラブが55%に上るため、2830地区では一度もアクセスしていないクラブに対して、その利用を促します。

デジタルアーカイブの推進

過去の貴重な記事や資料はデジタル化され、オンラインでのアクセスが容易になっています。必要な時にいつでも過去の記事や懐かしいメンバーの情報を手軽に取得できるため、このサービスの活用を推進します。